

教員EAプロジェクト応募資料

応募区分	教育実践部門
所属(園・学校名)	垂井町立不破中学校
氏名	古田卓也(研修主事・研究主任)
取り組んだ課題	本校は、入学時の学力に課題がある生徒が多く、年々、この傾向は深刻化している。こうした実態に鑑み、何より低学力の生徒に軸足を置いた授業づくりに注力し、より多くの生徒が「分かった」「できた」と思える瞬間を増やしたいと考え、数年来、「プロジェクトK」に取り組んでいる。「K」は、「黒板」の頭文字で板書計画を表す。
具体的な活動内容	<p>令和5年度は、以下の内容に重点的に取り組んだ。</p> <p>1 同一歩調でキックオフ(4月)</p> <p>「プロジェクトK」で取り組むことを、年度はじめの職員会で、簡潔に確認した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「この1枚さえあれば、1時間の学習内容がよく分かる」という板書計画を作成し、授業開始時に求める生徒に手渡すことを、すべての教員が、すべての授業で行う。</p> </div> <p>2 板書のブラッシュアップ</p> <p>「プロジェクトK」の効果をより高めるためには、「生徒はどのような板書計画を求めているのか」を知る必要があると考え、次のように、板書計画の質の向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒へのアンケート調査(7月・12月) <p>すべての生徒に、授業の前半に配付する板書計画のプリントを活用する頻度や方法などとともに、板書計画のプリントが配付されることにどのようなよさを実感しているかを聞き、結果をもとに改善の手立てを考えた。</p> <p>3 教員のスキルアップ</p> <p>取り組む中で、「どうすれば学習内容がよく分かるような板書計画になるか」について、教員の課題意識が高まった。そこで、次のように、板書計画作成の技能向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科部会で意見交流(4月) <p>各々が作成した板書計画を持ち寄り、改善するとよい点を互いに交流した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修主事および教務主任による直接アドバイス(5月・6月・10月・11月) <p>授業公開を機会に板書計画を集約し、朱を入れて直接アドバイスを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員向けの通信による啓発(随時)【資料1】 <p>「研推便り」の中で、模範となる板書計画を取り上げ、積極的に発信した。</p>
取り組み成果	<p>1 生徒にとっての成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月のアンケート調査の結果、全校のおよそ85%の生徒が、授業の見通しを立てたり、自分の意見をまとめたりするのに、板書プリントを役立てていることが分かった。また、学校を休んだときに授業内容を確認したり、テスト前に授業内容を復習したりするなど、授業に限らず、様々な場で有効に活用されていることが分かった。【資料2】 ・各種学力検査の結果をみると、全体的に学力は徐々に向上してきており、その傾向は学年が上がるにつれて顕著である。 <p>2 教員にとっての成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書計画を作成するために、教材研究が深まり、教材・教具の準備が入念になった。 ・低学力の生徒だけでなく、書くことに抵抗のある生徒や、黒板とノートの視線の往復が苦手な生徒など、生徒のもつ多様な特性に配慮しようとする意識が醸成された。
今後の活動展開	成果をふまえ、今後も「プロジェクトK」を推進する。そのために、令和6年度の研修計画及び研究計画の中に明確に「プロジェクトK」を位置づけ、成果と課題を検証していく。
校長所見	「プロジェクトK」は、誰でも簡単に実践できる意味で、大変シンプルである。しかし、作成に当たっては、教材研究が不可欠で、教師の工夫次第でどこまでも改善が可能であるという意味では、大変奥が深い。そこに、研修主事として正対し、リーダーシップを発揮して、組織的に学校課題の改善を実現した。すばらしい実践であり、高く評価できる。

【資料1】

研推便り

生徒が「分かった」「できた」の喜びを味わう指導・支援の在り方

授業が本格的に始まりました。生徒の様子を見ていると、時間を意識しチャイムで授業を開始できる学級がほとんどです。また、授業中の姿を見ても、一生懸命にノートにメモをとる姿、先生方の話に耳を傾ける姿など、一人一人が「分かった」「できた」を積み上げようとしていると感じます。そんな生徒たちの学びを少しでも助けられるように、不破中学校では「プロジェクトK」を実践しています。ポイントを載せますので作成する際の参考にさせていただければと思います。

教科書のページを記入
(黒板にも位置付ける)

P.22~29

心情の変化をつかもう
シン シン シン

西加奈子

物語のあらすじをつかみ
感想を書こう。

シンタ (主人公)

僕にそっくり

まるで双子

みんな「シン シン」とよんだ

二人はたがいに相手を同じような人間だと感じていた

好きな ↔ 嫌いだ

意見の違い

頭を殴られたような衝撃

迷い

気まずさ

違うところがあれば、いっしょにいられなくなる

△感想の例△

シンタとシンタの関係に着目した。好きなものが同じで双子のようだったのに、小説のことがきっかけで気まずさ、が生まれたというところが共感できた。自分でもシンタだったろうとも悩むたろうと思った。

△作者△

一九七七—
イラン・テヘラン管区
小説家

情報量が多いと混乱する生徒がいます。最小限の文字数で作らしましょう。

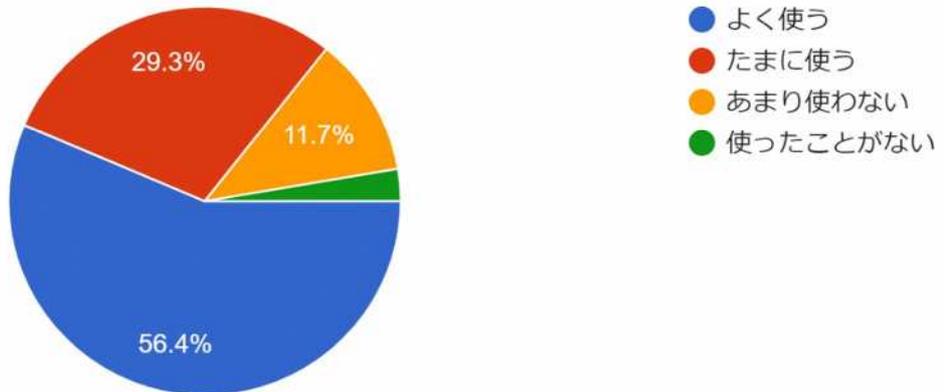
- 振り返りやまとめの書き方を紹介するのもよいと思います。「振り返りを書きましょう」の一言では何を書いてよいか分からず、手が止まってしまう生徒が多くいます。
- 板書計画なので、教師の発問や授業を展開する上でのメモなど、生徒に必要な情報以外は省きましょう。
- 授業の始めに声をかけ、必要な生徒に配付するとよいと思います。その際、効果的な活用方法を伝えるようにしましょう。
- 実際の黒板の縦横比を反映した枠を準備しました。「R5→学習研推→板書テンプレ」にデータを入れてあります。必要であればご使用ください。

【資料2】

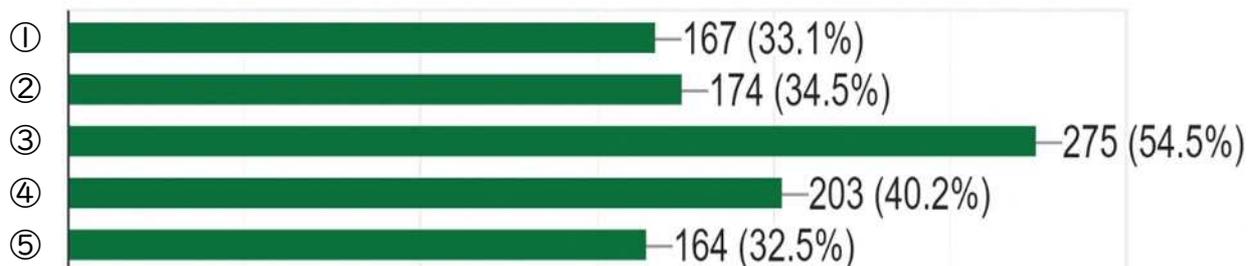
プロジェクトKに関わって

板書プリントの活用に関するアンケートを、生徒全員を対象に実施しました。その結果です。

□ 板書プリントを活用したことがありますか？



□ どのような場面で活用していますか？



- ① ノートを写す代わりに板書プリントを活用している
- ② 黒板の文字を写すときに手元のプリントを見ながら写している
- ③ 授業の流れが分かるので安心して授業を受けることができる
- ④ 板書プリントがあることで、自分の意見をもちやすい
- ⑤ (テスト前等に) 授業の復習をするために活用している

<その他の意見>

- ・休んだ時に授業の内容を確認することができる
- ・問題を解けなかった時に見て理解している
- ・黒板の文字が書ききれなかった時に使っている

「よく使う」「たまに使う」の項目を見ると、およそ85%の生徒が活用していることが分かります。活用場面として「授業の流れが分かるので安心して授業が受けられる」が一番多く、半数以上の生徒が板書プリントによって安心感を得ています。初めてのことを学ぶ生徒にとって、「分からない」「できない」は不安な気持ちになり、「楽しくない」にもつながります。生徒が少しでも先を見通し、安心して「分かった」「できた」を実感できるようにするために、今後も板書プリントの作成に力を入れていきましょう。